

原田ゼミナール

～フィールドワークによる河川環境保全の研究～

高島宏幸 西村海斗 浜本咲希 吉村理子

原田ゼミナールの活動目的

近年、環境問題がますます深刻な課題となっているなか、私たちにとって身近な地域の環境に目を向けても水辺空間や緑地の喪失は、大きな問題になっています。

なかでも、私たちの暮らしにとって川は身近なものではなく、そのことが環境の悪化を招き、深刻な問題を各地で引き起こしています。

本ゼミナールではこのような問題について経済学の様々な方法論をもとに、私たちにとって身近な「河川環境の保全」について研究を行っています。

海産天然遡上鮎の復活プロジェクト

はじめに

淀川の上流・保津川(桂川水系)の鮎は朝廷に献上される「献上鮎」と称されるなど、古くから日本一の鮎と言われていましたが、水質の悪化やダムによる河床の粗粒化、堰堤による遡上阻害などが原因で海産鮎の数が激減しており、漁協の経営も苦しくなっています。

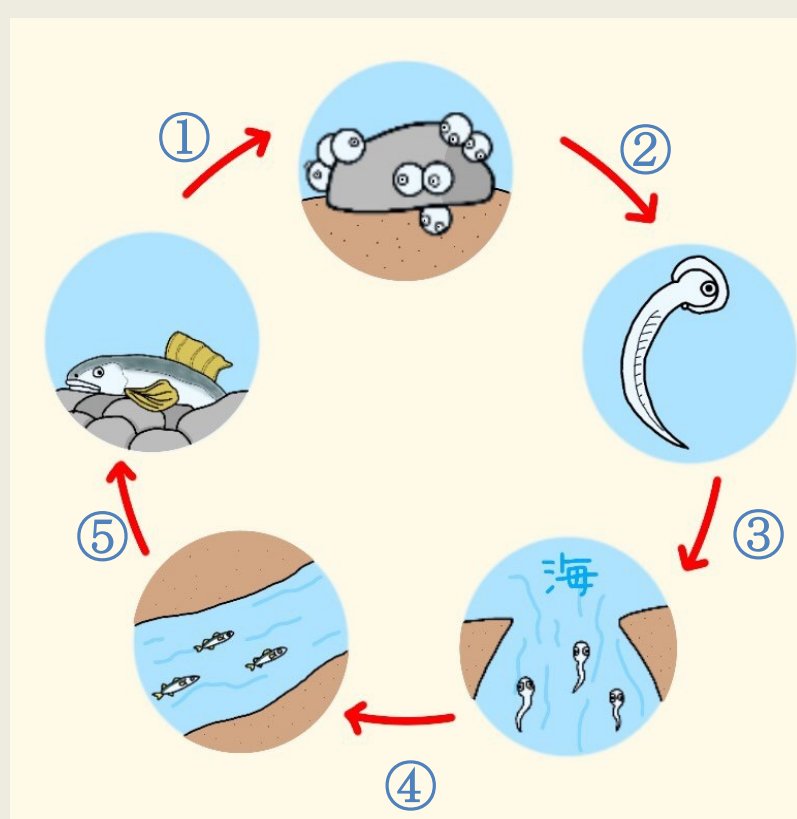
私たち原田ゼミナールは去年から保津川の海産天然遡上鮎の復活をめざした活動に取り組んでいます。

鮎の生態

鮎は、東アジア一帯に広く分布しています。鮎の成魚は川で生活・産卵しますが、稚魚の間、生活史のおよそ3分の1を海で生活しています。このような回遊の仕方を「両側回遊」といいます。また、鮎の寿命は1年で、「年魚」とも呼ばれています。

石についた藻類を食べることからそのような環境に恵まれた川を好み、大陸にあるような長大な河川よりも日本の川に適した魚です。

鮎の成長経路



- ①秋に産まれた卵
- ②2週間後に孵化
- ③川を下り、冬の間は海で暮らす
- ④春～初夏に川を遡上し、夏は川で生
- ⑤秋に河口部で産卵し、生涯を終える

鮎の掬い上げ in 桂川3号井堰

ダムや堰堤などの障害物により遡上できず下に滞留した鮎は、人に釣られてしまったり、カワウやスズキなどに捕食されて遡上できません。

京の川の恵みを活かす会のみなさんと協力して毎年5月～6月に行っている桂川での鮎の掬い上げでは、堰堤下に滞留した鮎を投網を用いて捕獲し、上流に運ぶとともに、捕獲した鮎のヒレの一部をカットして放流し、生息区域の調査を行っています。



保津川(桂川)の堰堤マップ



清掃活動 in 保津川・保津峡

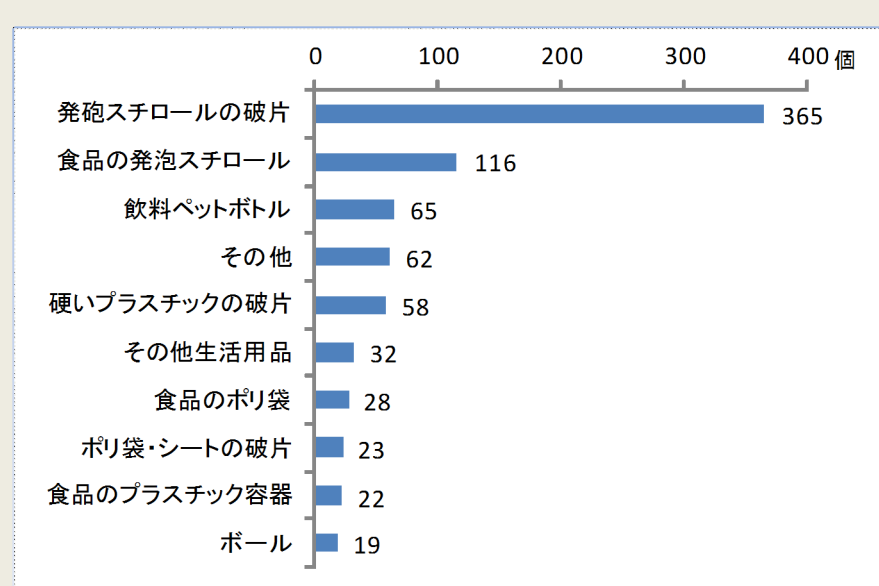
海産天然遡上鮎の復活プロジェクトに伴って保津川上流部の亀岡市で清掃活動を行っており、活動場所までは保津川下りの船で移動し、現地到着後にゴミ拾い、そして拾ったごみの分類をします。

この清掃活動はクライアントである保津川遊船企業組合や保津川漁業協同組合、地域住民の皆さんの取り組みにゼミ生もボランティアスタッフとして参加して行われており、鮎の生息地の環境保全や保津川流域の景観を守るといった点で重要な活動となっています。

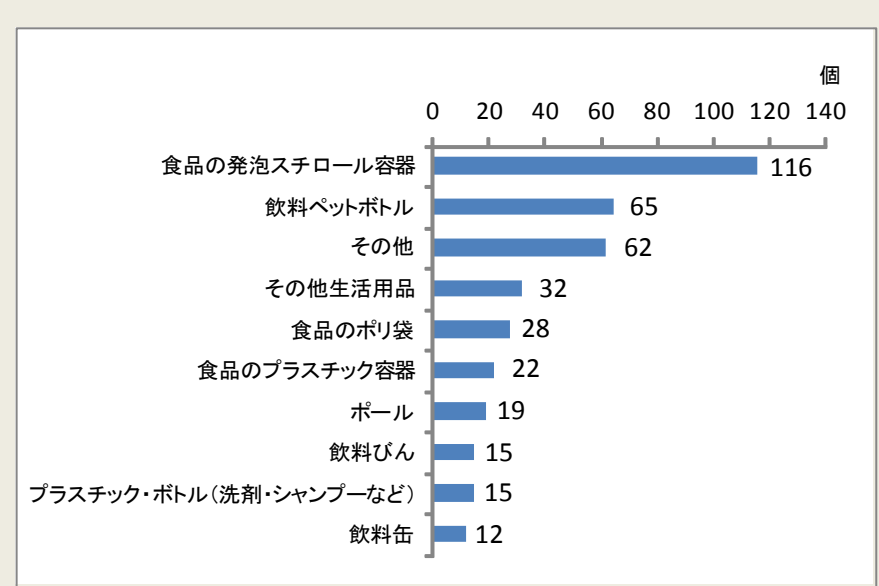


2016年7月27日の調査結果

破片を含む(上位10品目)



破片を除く(上位10品目)



主な活動内容

活動フィールドマップ



ゴミの組成活動 in 海老江干潟

毎月第2日曜日に淀川海老江干潟で行われている組成調査で、海老江干潟に何らかの形で漂着・投棄されたゴミを回収・分析をします。

この活動を行うことによって、私たちが気にも留めず捨てていたゴミが自然を破壊しているということに気付くことができました。また一緒にゴミ拾いに参加されているボランティアの方々との交流を経て新しい人間関係も作ることができるので楽しい活動となっています。この活動はNPO法人ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワークのみなさんと一緒に活動しています。



イタセンバラの野生復帰への

取り組み in 鹿窪ワンド

国の天然記念物のイタセンバラとその生息地である淀川の自然再生を目指す取り組みの一環として、私たちのゼミでは淀川鹿窪ワンド(守口市)の生物調査とその周辺の清掃活動を行っています。

生物調査では地引網で捕獲した生物を外来種と在来種に分け、どんな生物がいるかを明らかにするとともに外来種の駆除を進めています。現状ではまだまだ外来種が多いため、生息環境の再生にためながらイタセンバラの再導入のチャンスを見極めていく状況です。



イタセンバラとは？



写真提供：大阪府立環境農林水産総合研究所

日本の固有種で、現在は淀川水系・富山平野・濃尾平野だけに分布しており、個体数がきわめて少なく絶滅が危惧されている。

河川のワンドやタマリ・池沼・ため池などの水流がないところもしくは穏やかでヨシやガマなどが繁茂する浅瀬に生息している。

島ゴミプロジェクト in 友ヶ島

友ヶ島は和歌山県にある、神島・地の島・沖の島・虎島の4つの島を総称したもので、マリナレジャーや自然観察・ハイキングを楽しめるだけでなく、砲台跡や薬庫などの戦時中の施設が多く残されているため最近では廃墟ブームということもあり、人気のスポットとなっています。しかし、海流に乗って大量のゴミが漂着する場所でもあり島の美しい景観が損なわれています。

NPO法人ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク、NPO法人スマイルスタイルのみなさんが中心となって開催されているこのプロジェクトは、今年で10年目を迎えました。私たちがこの活動にボランティアスタッフとして参加し、清掃活動や漂着ごみの調査を行っています。

また、今年は清掃活動だけではなく、キャンプも行われ拾ったゴミで作るランタン制作体験なども行われ好評でした。



まとめ

現在の日本の河川の問題はまだまだ深刻で、これからも解決しなければいけないことがたくさんあります。なかでも人々の河川に対する関心が以前よりなくなったことが原因で環境が悪化し、各地で深刻な問題を引き起こしています。私たち原田ゼミナールでは行政機関やNPO、企業と連携してこのような問題の解決方法を探るとともに、地域住民や一般市民の方々と一緒に保全活動を行うことによって、河川に対する関心を持ってもらい、河川の問題意識の向上を目指しています。